

学校教育目標		志をもって、自ら学び、未来を創造できる生徒を育成する		重点目標	自己調整力を身につけた、自律的学習者の育成			
重点目標	評価計画			自己評価		学校関係者評価	改善計画	
	重点目標	目標達成のための方策（取組指標）	成果指標	評価	結果（成果○と課題△）	コメント	次年度における改善策（案）	
目標	□学力向上 ・基礎基本の定着 ・主体的に学び合う	○わかる・できるを実感する授業実践 ・書く活動、話し合い活動の取り組み (教師アンケート3.0以上)	◇「授業がわかりやすい」と回答の生徒 4段階評価3.0以上	3	○校内研修（主題研）において、 授業改善への取組を行っている。	A	・学校の評価は適切である。 ・タブレットドリルを活用し効果的な学習をしている。	・アウトプット活動を授業に位置づけて、生徒の知識技能の定着を図る。
		○建設的な対話活動で学び合う授業づくり ・自己存在感や充実感を持たせる場づくり (教師アンケート3.0以上)	◇「自由な意見が言える」と回答の生徒 4段階評価3.0以上	3	○タブレットドリル（5教科）を導入して、基礎・基本の定着を図った。	A	・ICTを活用して基礎学力の定着に向けた取組をさらに充実してほしい。	・生徒理解のための研修会の開催、小学校との引き継ぎを確実に実施する。
		○授業の振り返りの活用を基礎・基本の指導の充実 ・タブレットドリル活用や橋ノートの指導等	◇「できた、達成感を感じた」と回答の生徒 4段階評価3.0以上	3	△授業に関する生徒アンケートの結果を基にした授業づくりが不十分である。	A	・次年度、生徒アンケートをもとに授業改善に取り組みされると、さらに学習意欲が増すと思う。	・タブレットドリルの活用を徹底し、学習内容の定着を図る取組を実施する。
関する	□豊かな心の育成 ・互いのよさを認め合い、対話できる仲間づくり	○互いに認め合うことを意識した指導 ・丁寧な傾聴姿勢による会話 (教師アンケート3.0以上)	◇「学校は安心できる」と回答の生徒 4段階評価3.0以上	3	○QUTテストの分析を行い、学級づくりや教育相談等へ活かすことができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・生徒は地域（見守隊）の方によくあいさつをしていく。	・QUTテストを活用した学級の状況把握と対応を確実にし、指導等に活かす。
		○重点項目の指導を通して、物事を多面的・多角的に捉えよりよく生きる指導 (教師アンケート3.0以上)	◇「友達との関係がよい」と回答の生徒 4段階評価3.0以上	2	○生徒会活動は、執行部を中心に積極的に取組を進めることができた。	B	・QUTテストを活用したことで、生徒がお互いに安心して学習に臨む環境作りが進んでいる。	・生徒会委員会活動において、タブレットを活用した取組を工夫する。
		○生徒会活動で達成経験を積み重ねる活動 ・挨拶・募金・ボランティア活動や学校行事への積極的参加	◇「意欲的に活動した」と回答の生徒 4段階評価3.0以上	3	△道徳や人権学習の取組が計画的に進めることができなかった点がある。	A	・学校の評価は適切である。 ・学校再編に向けた工事により厳しい環境で工夫されています。	・生徒の心への育成に向けた道徳や人権学習の取組を検討し、確実に実施する。
評価	□体力向上 ・健康教育の推進 ・感染症等の予防	○1校1取組の体力向上プランの実施 ・委員会活動による昼休み運動者数の向上	◇「体力が向上した」と回答の生徒 4段階評価3.0以上	3	○体力向上プランに基づいた取組を行い、体力向上に寄与することができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・運動場や体育館が思うように使用できない中、運動量確保によく取り組んであります。	・生徒の体力づくりにつながるように、生徒自身が主体的に取り組む活動を工夫されています。
		○体育授業で運動量確保（70%以上） ・主体的な体力強化運動の定期的実施	◇「積極的に参加した」と回答の生徒 4段階評価3.0以上	4	○委員会活動の日常の取組を中心に健康教育やそれに関する取組が進められた。	A	・さらに工夫した場所や時間の確保の必要性があると思われました。	・健康管理への取組が行われるように、委員会を中心に計画実施ができるようになります。
		○委員会活動を中心とした健康教育の推進と感染症等の予防 ・毎日の健康観察と感染防止活動の徹底	◇「健康的な生活をしている」と回答の生徒 4段階評価3.0以上	4	△再編整備に伴い制限された条件の中で、昼休みの運動を工夫する必要があります。	A	・学校の評価は適切である。 ・校内研究を中心とした取組が進められている。	・他者理解に努められるように、道徳で心情を育み、授業で相互理解する活動を行う。
いじめ防止	□認知したいじめの解消と未然防止 ・支持的風土に支えられた学習集団づくり	○QUTテストの活用、人間関係調整力を育むアサーティブコミュニケーションの実施 (教師アンケート3.0以上)	◇「落ち着いて過ごせる学級」と回答の生徒 4段階評価3.0以上	3	○生活アンケートを実施して、いじめ等への早期発見、早期対応ができた。	A	・QUTテストの結果を分析して、学級づくりを活かしてほしい。	・教師が生徒の様子を把握し対応できるように、客観的データを基に取る。
		○早期発見と迅速で組織的な対応 ・いじめアンケート、毎月の教師チェック (教師アンケート3.0以上)	◇教師用チェックを毎月実施 ◇「相談できる教師がいる」と回答の生徒 80%以上	3	○QUTテストの結果を全職員で共有し、各学年・学級の対応等を検討した。	A	・いじめ防止対策委員会と連携し、未然防止への取組を学級づくりに活かす。	
		○アンケートを生かした教育相談の実施 ・学期に1回、気になる生徒には随時実施 職員とSC間で情報を共有し対応	◇6月、10月、2月の教育相談（二者面談）実施	2	△安心できる学級づくりへの取組をさらに検討する必要がある。	B	・学校の評価は適切である。 ・専門知識を持った方の協力を得た取り組みで安心しました。	・今後SC、SSW等と連携し、生徒の社会的自立に向けた取り組みを進めてほしい。
不登校防止	□不登校生徒減少 ・自己有用感を高める集団づくり	○各教科で工夫した、わかる授業の実施 ・個別最適な学びで、いつでも参加しやすい授業づくり (教師アンケート3.0以上)	◇「自分に自信が持てる」と回答の生徒 4段階評価3.0以上	2	○SC、SSW、関係機関との連携を図りながら、事案等への対応を行っている。	B	・学校の評価は適切である。 ・今後SC、SSW等と連携し、生徒の社会的自立に向けた取り組みを進めてほしい。	・会議で共有した情報をもとに、多様な視点で生徒と関わることができる環境を確保する。
		○福岡アクション3とマンツーマン方式の指導を学年協働で徹底 (教師アンケート3.0以上)	◇長期欠席生徒の登校日数前年比2割増加	3	△個別の状況を分析し、取組を行う必要がある。また、小中連携を行いながら、取組を検討する必要がある。	A	・思春期の時期にある生徒が自分に自信が持てる回答は少ないかもしれませんが、研修等を実施する。	・生徒の心の居場所づくり、仲間づくりを進めることができるように、研修等を実施する。
		○関係機関とのケース会議や校内ケース会議で情報共有と支援体制の調整 ・月末に実施	◇毎学期に複数回のケース会議を実施 開催結果	3	○水曜日の午後の時間の有効活用を行うことができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・引き続き超勤縮減に向けた創意工夫を活かした取り組みを進めていただきたい。	・校務や分掌内容の精選を行い、教職員の意識改革を積極的に進める。
働き方改革	□時間外勤務縮減 ・業務改善の推進	○週1回の定時退校日、部活動休業日の確実な実施	◇「実施できた」と回答の教師 4段階評価3.0以上	4	○校支援システムを活用して業務の効率化を図ることができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・引き続き超勤縮減に向けた創意工夫を活かした取り組みを進めていただきたい。	・効率的な働き方や個人に応じた取組を検討する機会を設定し、実践を行う。
		○校支援システム活用による業務効率化 ・会議資料等をデータ配布で実施	◇「効率的に取り組んだ」と回答の教師 4段階評価3.0以上	4	△超過勤務の実態を把握し、業務等の見直しをさらに図る必要がある。	B		
		○時間外勤務が多い職員への指導と助言 ・メンタルケアと業務効率化を推進 (教師アンケート3.0以上)	◇時間外勤務時間の縮減、前年度比1割減 R4年度比較	2				

◇ 評価について

【自己評価】 4：目標達成（90%以上） 3：ほぼ達成（70%～90%） 2：もう少し（60%～70%） 1：できていない（60%未満）
【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである

令和5年度 学校評価報告書

評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画
領域	評価の観点		評価指標 (①取組指標または②成果指標)	評価	結果 (成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策 (案)
総合的評価	教育課程 学習指導	○教育課程の適正な編成・実施・管理	○2ヶ月短期のPDCAサイクルで改善を図り、チェックからアクションへの具体的な取組を実践する。	2	○生徒に授業アンケートを行い、授業改善に活かすことができた。	B	・学校の自己評価は適切である。 ・CD層の生徒に対する取り組みの具体化が大切になってくると 思います。 ・学力向上プランの小中共通実践を進める必要がある。	・主幹教諭やミドルリーダーを推進役に教育課題解決や重点目標達成に向けたビジョンを共有し、組織的編制を図る。 ・学力向上に向けた取組として、読解力に特化した内容を検討していく。
			○教務手帳、定期考査による進捗や内容の管理を行う。	3	○教育課程の質的、量的な管理を行うことができた。	A		
		○学力向上プランに即した授業の工夫改善	○生徒授業アンケートにより授業改善を行う。	3	△学力向上に向けた取組を十分に検討する必要がある。	A		
	進路指導	○キャリア教育の充実	○特別活動と総合的な学習の時間を中心に、体験活動やESDの視点を取り入れた進路学習を、系統的に実施する。3学年の進路相談の充実を図る。	3	○系統的な進路学習を進めることができ、生徒が具体的な見通しをもつことができるようになった。	A	・学校の自己評価は適切である。 ・進路実現に向けた取り組みをさらに充実させてほしい。	・年間計画の見直しを担当者で年度当初に検討を行い、生徒の実態に応じた取組内容にして活動する。
			○組織的で協同性のある生徒指導の推進	○互いのよさを見つけ、認め合う力を伸ばす指導を行う。(80%の生徒が実感できる)	3	○生徒指導の4つの視点を意識した生徒指導を行うことができた。また、よさを見出し、認め合う機会があるごとに行った。		
	生徒指導	○生徒指導の機能を生かした指導の推進	○自己決定・自己存在感・共感的人間関係・安心安全な風土を意識した指導の推進を図る。	3		A	・学校の自己評価は適切である。 ・生徒指導の4つの視点を大切に した生徒指導の推進を図ってほしい。	・生徒のよさを教師や生徒同士によって見出し、相互に認め合うことに取り組んでいく。また、生徒指導の4つの視点をもとに、生徒への対応を行っていく。
			○健康教育の充実	○保健委員会の食育・薬物乱用防止教育・保健指導等の指導を計画的に行う。	4	○薬物乱用防止学習を養護教諭と保健委員会によって行い、学習内容の理解につながった。		
	保健管理	○生徒の健康管理能力の育成	○保健委員会の主体的な活動を中心に、日常的な保健管理活動と健康教育の充実を図る。	3		A	・学校の自己評価は適切である。 ・事故や生徒の大きなケガが起きていないことが何よりです。	・保健委員会の活動を中心とした取組を充実させ、健康に関する知識の定着や早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣の確立に向けた指導を行う。
			○日常的な安全確保	○登下校、授業中や休み時間等の安全指導と、校舍改築に伴う施設設備等の安全管理を徹底する。	4	○施設等の状況確認を定期的に行い、不備等への対応を迅速に行うことができた。また、安全対応の学習を実施した。		
	安全管理	○安全対応能力の向上	○防災・減災教育、防犯教室、救命救急講習等を計画的に実施する。	4		A	・学校の自己評価は適切である。 ・学校再編に伴う工事の中、生徒の安全管理は大変だと思えます。	・様々な学習や諸訓練を通して、個々の状況に応じて判断や行動ができる力を身につけるようにする。
			○支援体制の整備・充実	○特別支援教育コーディネーターを中心に、支援が必要な生徒の把握と、保護者と情報共有をして個別の支援計画を作成する。また、大牟田特別支援学校との連携を図る。	3	○専門機関による巡回相談を活用して、取組等の検討を行った。 △生徒に関する個々の情報を共有し、対応を検討することが不十分であった。		
	特別支援教育	○校務運営の円滑化・効率化	○諸会議時間の短縮化、効率化を図る。	3	○校務運営の効率化に向けた取組を進めた(ペーパーレスなど)。	A	・学校の自己評価は適切である。 ・組織の改善策を見出して、協働で取り組むことが大切である。	・特別支援コーディネーターを中心に、学年や学校全体で情報の共有、具体的な支援のあり方を検討して実践していく。
			○学校経営への参画意識高揚	○主幹、主任、主事等が諸会議を運営する。	3	△学校経営への参画意識をさらに高める取組を進める必要がある。		
	組織運営	○主題研究の推進	○研究主題を意識した全員1回の授業公開と年2回の代表授業研究会を行う。	2	○年間計画に沿って校内研修の取組を行うことができた。	B	・学校の自己評価は適切である。 ・小中の交流を進めるなど工夫した取り組みが必要であると思う。	・校内研修のあり方を見直すとともに、校内研修の価値を見出すことができるように、研究推進委員会の機能を充実させる。
			○キャリアアステージに応じた職能研修の充実	○キャリアアステージに応じた各種研修会への参加の呼びかけや支援を行う。	2	△校内研修の必要性や自己研鑽につながることを認識できるようにする。		
	研修	○教育目標・重点目標の達成状況	○各種アンケートや自己評価で達成感がもてるように目標の共有をする。	2	○重点目標や学期ごとの目標を意識できるように、全校集会で伝えた。	B	・学校の自己評価は適切である。 ・Web回答の未回答に対するの対応を工夫する必要がある。	・重点目標達成に向けて、生徒の変容を確実に把握できるように、短期のPDCAサイクルで改善実践を重ねていく。
			○学校評価の充実	○自己評価や学校関係者評価に基づき改善計画を立てる。	3	△web回答によるアンケートを実施するが、提出率が6割程度である。		
	教育目標 学校評価	○家庭や地域への積極的な情報発信	○一斉メール配信システム、ホームページ、学校通信等を活用した教育活動の発信を定期的に行う。	4	○学校だよりや学年・学級だより、Mボード等での情報発信を行い、学校の様子を伝えている。	A	・学校の自己評価は適切である。 ・引き続き様々な場での情報発信を行ってほしい。	・学校の教育活動について、あらゆる機会や方法を用いて、積極的に発信していくことを継続していく。また、個人情報等には十分留意する。
○開かれた学校づくり			○学校行事、授業参観、土曜授業を通して学校開放を推進する。	3	○地域との連携を図るために、諸会議等への参加を行った。	A		
保護者・地域との 連携	○地域との連携	○まち協、民生委員会議、地域の行事等への積極的に参加する。	2	△学校再編整備により学校開放が十分にできない。工夫が必要である。また、小中連携も県の事業を中心とした取組を検討する。	B	・学校の自己評価は適切である。 ・おおむねブリッジとの連携した取り組みはすばらしいです。 ・地域との交流の場(住民と生徒参加型)が増えると連携に深みが出ると思います。	・閉校最終年度となることから地域への学校開放の機会を検討する。 ・小中連携については、中学校区として共通実践を検討して、取組を行うようにする。	
		○異校種との交流・連携の推進	○小中連携を推進し、小中合同研修会、体験授業、授業交流会等を計画的に実施する。	2				A
		○教材・教具の管理・整備	○教育効果を高める教材や機器等を充実させる。	3	○学校再編整備により教育環境が整えられ充実している。			A
教育環境整備	○施設・設備の管理・整備	○全教職員による毎月の安全点検を徹底する。	4	○生徒の作品等を掲示して、自尊感情の高揚に寄与している。	A	・学校の自己評価は適切である。 ・協力できることは取り組んでいただきます。	・学校再編整備が進行する中で、備品の管理を確実にを行うようにする。 ・生徒会活動を中心に環境美化活動を充実できる具体的な取組を検討できるように支援を行う。	
		○教育環境の充実	○よさを認める、ほめて伸ばす校内掲示や生徒作品展示の充実を図る。	4	△学校再編整備に伴う作業等に関して配慮すべきことが考えられる。			A

◇ 評価について ・【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)
・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである